

適性検査問題にチャレンジ⑥

次の文章は、総合的な学習の時間に、さくらさんがおこなった発表の一部です。これを読んで、あとの問題に答えなさい。

今日、^{わたし}私は、^{こうけん}社会貢献というテーマで発表をします。このきっかけとなったのは、先月、兄と^{いっしょ}いっしょにボランティア活動を体験したからです。

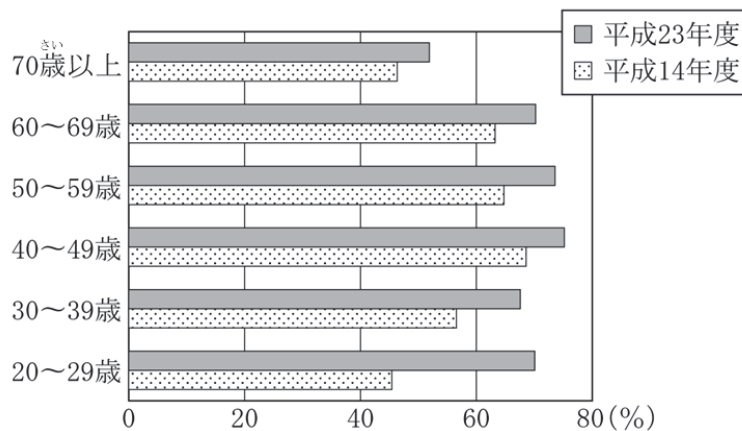
私は先月、兄に^{さそ}さそわれて、山道の^{せいそう}清掃ボランティアに出かけました。その道は、昔からお寺をめぐる人が利用する山道で、ふだんは交通量の少ないところです。山道を登って行くと、^{ちいき}地域のボランティアグループの人たちがすでに集まって、清掃活動に取り組んでいました。

私もすぐに作業に参加し、^{とちゅう}途中、グループの人たちから、ずいぶん前からこの活動に取り組んでいることを聞きました。私は、そのことに感心すると同時に、少しはずかしくなりました。なぜならば、地域のことをよくしようと、^{いっしょうけんめい}一生懸命取り組む人がいるのに、私はあまり地域のことに目を向けられずにいたからです。

兄は、「そう思うのならば、これからは、自分がどういう形で社会の役に立てるのか考えてみたらどうかな。しばらくの間は、いっしょにボランティア活動をしてみよう。」と言いました。兄は、さまざまな活動についても話してくれました。

私は、このことをきっかけに、日本人が社会への貢献についてどう考えているのかという^{ぎもん}疑問を持ち、調べることにしました。それでは、資料をもとに説明していきます。

資料 日ごろ、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っているか



※ 調査対象は20歳以上の男女

(内閣府『平成23年社会意識に関する世論調査』より)

適性検査問題にチャレンジ⑥ 解答解説

解答例

資料より、すべての年齢層で、平成14年度より平成23年度のほうが、社会に貢献しようとする意識が高まっていることがわかります。その中でも、20歳代の意識は、約45%から約70%へと最も大きく変化しています。

このような意識の高まりはとてもよいことだと思います。しかし、大切なのは、この意識を持ち続け、具体的な行動にうつしていくことです。私は、年に数回、河川清掃のボランティア活動に参加しています。これからも、自分ができる社会貢献のあり方について考えながら、いろいろなことに取り組んでいきたいと思っています。

解説

資料から読み取れることは、いずれの年代も平成14年度よりも平成23年度のほうが、社会の役に立ちたいと思う人の割合が増えていることです。さらに20～29歳の層が最もその増加が大きいこともわかります。これらの結論をもとにして、第2段落では、「社会貢献」についての自分の考えをまとめることになります。

第2段落については、公立中高一貫校入試の作文における特効薬「三角ロジック」による書き方が、やはりここでも効果的です（「三角ロジック」による作文の書き方は、『むぎっ子作文添削』でくわしく取り上げています）。なお、さくらさんが調査をしたのは、ボランティアの実態を知りたかったからであり、そこからまずは、いろいろなことに取り組みながら考えを深めていこうとしている点をふまえるようにしましょう。